

【山滝校区】
学校適正化に向けた校区懇談会
(第1回)



山滝校区 学校適正化に向けた校区懇談会について

【懇談会の設置目的・位置づけ①】

実施計画(第1期)(案)で示す(仮称)山滝小中一貫校の内容について、これまでの説明会等で地域の皆様からいただいたご意見の中から、疑問や懸念される事項等を取り上げ、それらの解消を図るための意見交換及び共通の認識を持つ場です。

【懇談会の設置目的・位置づけ②】

計画(案)を推進していくための会議ではなく、まずは地域・保護者代表の皆様引き続き十分な説明を行い、疑問・懸念等について協議・話し合いを行い、共通の認識を持つ場です。

【懇談会の開催日程・設置期間】

開催日程については、懇談会メンバーの皆様と調整の上、決定していきます。設置期間については、今後の話し合いの状況を踏まえて判断します。

山滝校区 学校適正化に向けた校区懇談会について

【懇談会メンバーの氏名や発言内容等の取扱い】

氏名等、個人情報公表は行いません。
ただし、懇談会での話し合いの内容を広く市民の方にも周知するため、発言内容により個人が特定されない形で会議概要をとりまとめ、会議資料とともに市のホームページで公開する予定です。

【懇談会における話し合い内容の取扱い】

懇談会は、地域・保護者の皆様との意見交換の場と位置付けており、意思決定を行う場ではありません。今後の方向性については、懇談会での話し合いの内容を踏まえ、市と教育委員会で判断していきます。

【懇談会メンバー以外の地域住民のご意見について】

市ホームページにおいて、学校再編に関するご意見・ご質問について随時受付を行っております。いただいた内容については、市・教育委員会の考え方とともに公開いたします。当懇談会の会議概要についても公開し、それに対するご意見等も承ります。

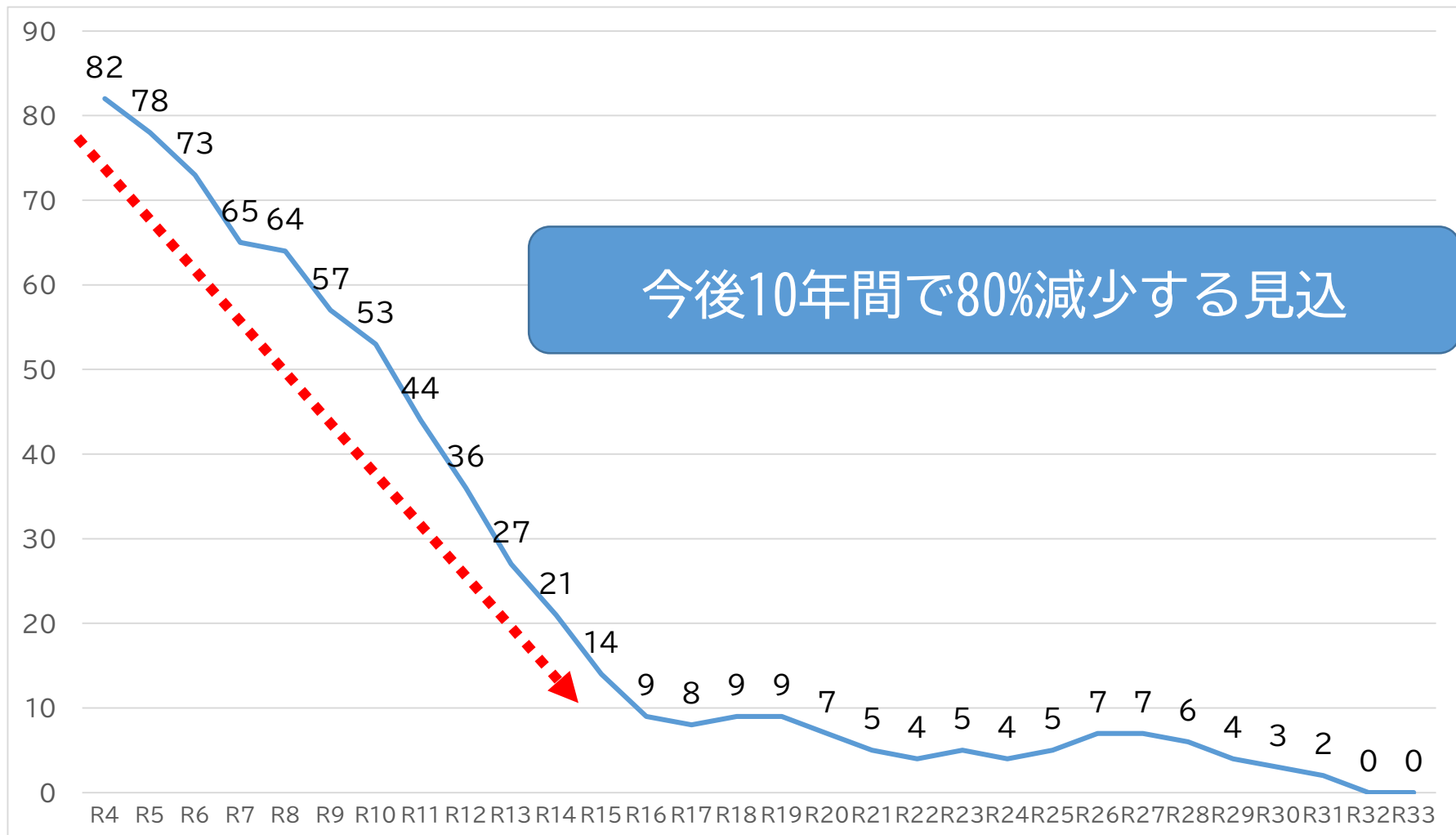
他の校区における校区懇談会の設置状況について

(令和4年6月29日現在)

| | 校区 | 懇談会設置 | 初回開催日 |
|---|--------|--------|-------|
| ① | 旭・太田 | ○ | 5/14 |
| ② | 常盤 | ○ | 5/14 |
| ③ | 山直北・城東 | ○ | 6/1 |
| ④ | 修斉 | ○ | 6/21 |
| ⑤ | 山滝 | ○ | 6/29 |
| ⑥ | 東葛城 | 参加者調整中 | 未定 |
| ⑦ | 天神山 | 協議中 | 未定 |
| ⑧ | 山直南 | 合意に至らず | — |

山滝校区の再編に係る山直南校区の懇談会設置については、現在地域との合意に至っておらず、学校再編に係る協議が停滞している状況。

山滝校区 将来推計人口(6歳～11歳)



R4. 4時点将来人口推計（企画課作成）より

山滝小学校 児童数・学級数見込

令和9年度

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 児童数 | 8名 | 7名 | 9名 | 8名 | 10名 | 10名 | 52名 |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5学級 |

令和11年度

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 児童数 | 7名 | 7名 | 8名 | 7名 | 9名 | 8名 | 46名 |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4学級 |

異なる学年を1クラスとして運営する複式学級が生じる見込み。

山滝小学校 児童数・学級数見込

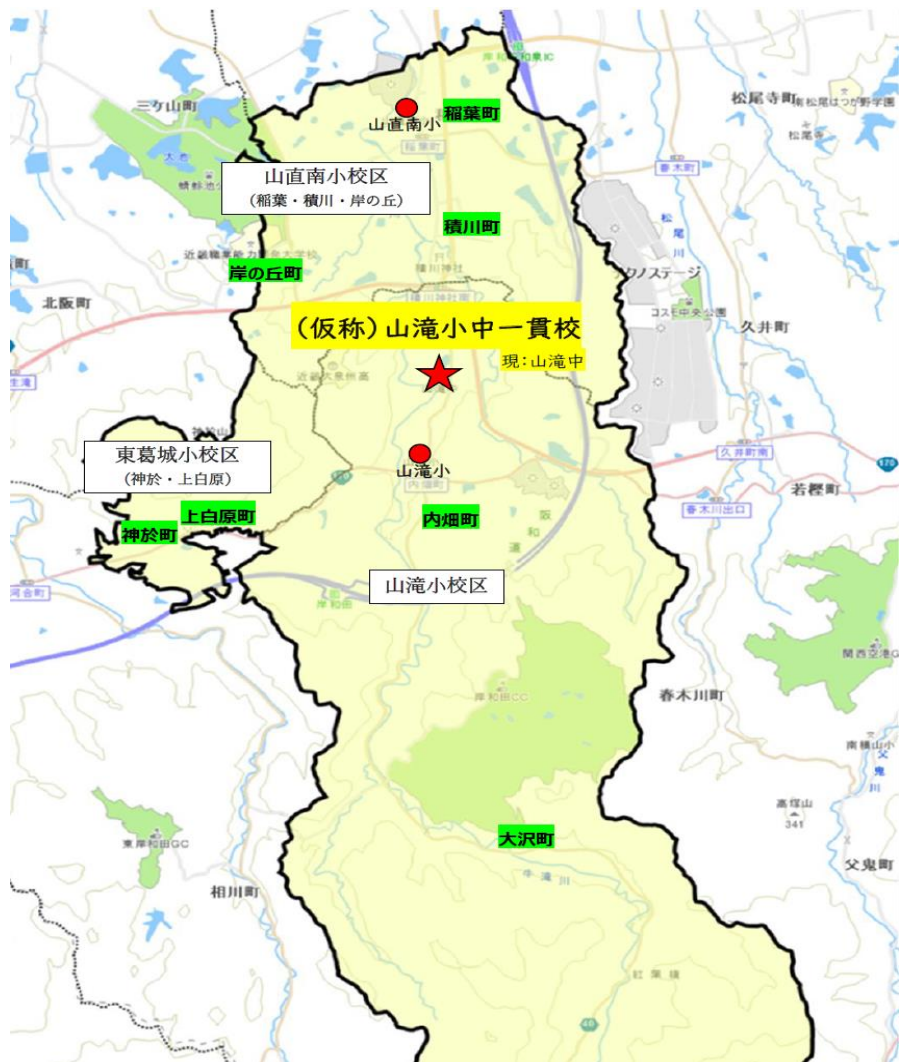
複式学級の課題

- 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。
- 単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある。
- 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある。
- 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。
- 教員に特別な技術指導が求められる。

一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統廃合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。

(仮称)山滝小中一貫校の概要

【新たな校区(案)】



【(仮称)山滝小中一貫校】
※山滝中学校敷地を活用

山滝中小学校

山滝小学校

山直南小学校
(稲葉・積川・岸の丘町)

東葛城小学校
(神於・上白原町)

(仮称)山滝小中一貫校の概要

◎小学校と中学校を同一敷地内に設置する施設一体型小中一貫校

小・中の教職員が同じ「めざす子ども像」を共有し、義務教育9年間の連続した教育活動を展開する小中一貫教育をより効率的・効果的に実践していきます。

◎小⇄中の教員による「相互乗り入れ指導」を実施

教育内容に対する小中の相互理解を通して、小学校から中学校への段差のない移行に対する教員の意識を高めます。

◎「教科担任制」を導入

小学校高学年からの「教科担任制」導入により、専門的な学習の積み重ね、学力や学習意欲の向上につなげます。

(仮称)山滝小中一貫校の概要

【施設一体型小中一貫校】の特徴を活かした
先進事例の取組では

- ◎4-3-2制の導入など、児童生徒の発達段階に応じ、学年段階の区切りを柔軟に設定
- ◎小学校高学年から50分授業の実施
- ◎小学校高学年から部活動への参加
- ◎運動会の合同実施、ランチルームで交流しながらの食事等、異学年交流充実の取組



(仮称)山滝小中一貫校における具体的な取組については、今後、他市の好事例等を参考にしつつ決定していきます。

(仮称)山滝小中一貫校の概要

◎「特認校制度」の実施を検討

特認校…住んでいる校区に関わらず、市内全域から通うことができる学校
⇒他の校区から児童生徒が集まることで、子どもたちが多様な考えに触れる機会を創出していく。

◎「特認校」での取組事例

- 近隣住民の協力のもと、自然を活かした様々な体験学習を展開したり、地域の歴史や文化について学ぶ。
- 大学等と連携し、英語・体育・ICT等、分野に特化した教育活動を展開する。

(仮称)山滝小中一貫校の概要

◎老朽化した校舎を建替

◎山滝プール、山滝小学校敷地をサブグラウンドとしての整備を検討



校舎のレイアウトや設計図等、具体的な検討については、今後、(仮称)学校開校準備委員会において、地域・保護者・学校関係者の皆様とともに行っていく。

新校舎整備の一例

(仮称)山滝小中一貫校の概要

◎小中一貫教育を効果的に行うための施設整備を検討



小中共用図書室(つくば市春日学園)



ランチルーム(和泉市南松尾はつがの学園)



小中合同の職員室(つくば市春日学園)

異学年交流を促進



1階中央の異学年交流の場(京都市花背小・中学校)

教員間の情報連携や
交流がスムーズに

(仮称)山滝小中一貫校の概要

◎文部科学省が示す「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を踏まえ整備

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）



【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現
- ⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
 - ⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
 - ⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）



1人1台端末環境等に対応したゆとりある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応



ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用

生活

- 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
- ⇒ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
 - ⇒ 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

共創

- 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現
- ⇒ 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
 - ⇒ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

安全

- 子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
 - ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

環境

- 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現
- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
 - ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

(仮称)山滝小中一貫校の概要

◎文部科学省が示す「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を踏まえ整備

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」としていく姿



教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿



映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿



木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿



長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

山滝校区 学校適正化に向けた校区懇談会について

現状は

山直南校区における校区懇談会の設置について、地域住民と合意に至っておらず、実施計画第1期(案)で示す、(仮称)山滝小中一貫校設置に向けた議論が停滞している状況。

そのような中

山滝校区における児童数は今後さらに減少する見込みであり、子どもたちのより良い教育環境を将来にわたり保障する上で、これからの学校のあり方について早急に検討する必要がある。

当懇談会を通じ

考えられる様々な方策や手段について、互いに意見交換し、話し合いを重ねることで、山滝校区のこれからの子どもたちの教育環境、学校のあり方についてより良い方向性を見出していく。